

執筆者紹介

(敬称略、アルファベット順)

相原 茂 (あいはら・しげる)

1948年福島県会津生まれ。東京教育大学文学部博士課程単位取得退学、文学修士。お茶の水女子大学教授、前日本中国語学会理事長。日本の代表的な中国語学者として、現代中国語文法論、日中対照研究、日中異文化コミュニケーション、中国語教育、NHK 中国語講座など多方面にわたって精力的に活躍中。また、実践的な中国語コミュニケーション能力を測る検定、TECC (Test of Communicative Chinese) の開発、普及につとめている。『講談社中日辞典第二版』(講談社)をはじめ、論文、著書多数。

ゲリー・ディドウワラ (Géry d'Ydewalle)

1946年ベルギーのブラッセル生まれ。Music School of Bruges、Ghent、Cologne で学び、Baccalaureus PhŒosophy (Ph.D. in Psychology) を Leuven 大学から取得。1980年より同大学の Director of Laboratory of Experimental Psychology を務める。1977年の Psychology Award of the Royal Academy など4度受賞。InternatŪnal Journal of Psychology の編集長の他、10誌ほどのジャーナルを手がける。InternatŪnal UnŪn of Psychological Science の会長を始め、数々の要職につく。何百という出版物があるが、Visual and oculomotor functŪns: Advances in Eye Movement Research (Elsevier Science Publishers) など代表的な著作があり、ヨーロッパを代表する心理学者。

ロッド・エリス (Rod Ellis)

ロンドン大学より Ph.D. を取得。Temple 大学 TESL 主任教授を経て、現在はオークランド大学の Department of Applied Language Studies and Linguistics の学科長を務める。著書、論文多数。なかでも、英国応用言語学会の Best Book of the Year 1985を受賞した Understanding Second Language AcquisitŪn (Oxford University Press) と、Duke of Edinburgh Prize を受賞した The Study of Second Language AcquisitŪn (Oxford University Press) は代表的な著作。後者は「英語教育のバイブル」と称され、TESL や第二言語習得論の教科書として世界中の大学で使われている。

ユルゲン・レンツコ (JŪrgen Lenzko)

1950年ドイツのリュベック生まれ。「外国語としてのドイツ語教育」専門家。ケルン、ベルリン自由大学でドイツ語・ドイツ文学、教育学、歴史学専攻。1980年国家試験に合格しギムナジウム教員資格取得。その後ゲーテ・インスティトゥートへ移り、トルコ、フィンランドで方法論、言語教育と異文化学習 (ランデスクンデ)、インターネット活用の言語学習等に関し、ドイツ語教員対象の諸研修を企画・実施。98年より日本でドイツ語教員研修、CALL、文学や翻訳を通じた異文化対話の促進等の問題に取り組む。2002年11月よりミュヘン本部で研究・開発部門担当。現在、東京ゲーテ・インスティトゥート教育部長。

齋藤栄二 (さいとう・えいじ)

福島大学卒業、1972年ハワイ大学大学院修士課程修了(英語教授法専攻)。京都教育大学教授、同附属中学校校長を経て、現在、関西大学大学院外国語教育学研究科長。英語の教え方研究会名誉会長。現代英語教育研究会顧問。語学教育研究所理事。パーマー賞選考委員。関西英語教育学会紀要論文審査委員。著書に『英語を好きにさせる授業』(大修館書店)、『英文和訳から直読直解への指導』(研究社)、『英語授業成功への実践』(大修館書店)、『現代英語教育の文化的諸相』(三省堂)など多数。文部省検定教科書『ニュークラウン』(中学生用、三省堂)、『オーシャン』(高等学校用、啓林館)の執筆やNHK ラジオ『基礎英語3』の監修など幅広く活躍。